審議会等の会議結果報告

１．会　　議　　名	第 28 回　松阪市政推進会議
２．開　催　日　時	令和 5 年 3 月 20 日（月）午後 3 時 00 分～午後 5 時 00 分
３．開　催　場　所	松阪市役所　議会棟　第 3・4 委員会室
４．出 席 者 氏 名	出席委員：岡山慶子委員、小野崎耕平委員、門暉代司委員、酒井由美委員、髙島信彦委員、西川明樹委員、西村訓弘委員、平岡直人委員、村林守委員 欠席委員：梅村光久委員、松浦信男委員、三井高輝委員、山端裕子委員、米山哲司委員、渡邊幸香委員 事 務 局：竹上市長、山路副市長、永作副市長、岡本企画振興部長、藤木企画振興部経営企画担当参事兼課長、小川企画振興部経営企画課政策経営係長
５．公開及び非公開	公開
６．傍　聴　者　数	0 人（内、報道関係 0 社）
７．担　　　　　当	松阪市企画振興部　経営企画課 TEL　0598－53－4319 FAX　0598－22－1377 e-mail　kei.div@city.matsusaka.mie.jp

・議事録は別紙のとおり

第２８回 松阪市政推進会議　議事録

１．日　時　　令和 5 年 3 月 20 日（月）　 午後 3 時 00 分～午後 5 時 00 分
２．場　所　　松阪市役所　議会棟　第 3・4 委員会室
３．出席者　　岡山慶子委員、小野崎耕平委員、門暉代司委員、酒井由美委員、髙島信彦委員、西川明樹委員、西村訓弘委員、平岡直人委員、村林守委員
※欠席者　　梅村光久委員、松浦信男委員、三井高輝委員、山端裕子委員、米山哲司委員、渡邊幸香委員
〔事務局〕竹上市長、山路副市長、永作副市長、岡本企画振興部長、藤木企画振興部経営企画担当参事兼課長、小川企画振興部経営企画課政策経営係長

資料
・資料 1　R5 当初予算提案説明における基本的な考え方について（抜粋）
・資料 2　令和 5 年度の主な事業一覧

１　市長あいさつ

あらためましてみなさんこんにちは。今年度４回目の会議となります。本日の資料は令和５年度予算の資料です。令和５年度予算はポストコロナへの希望の予算としました。来年度は社会全体がポストコロナとして動き出す年で、地域間競争がますます激しくなると思います。そうした社会変化に対応しながら、令和５年度も住みよいまちをめざしていきたいと思います。

※松阪市政推進会議規則第 5 条により、会長が会議の進行を行う。

〇　会議の公開・非公開の決定

会長）
みなさんあらためましてこんにちは。本日もどうぞよろしくお願いします。
今回の会議も公開ということでよろしいですか。

（異議なし）

会長）
ありがとうございます。では本日も公開で進めてまいります。

２　協議事項

１）令和 5 年度の主な事業について

市長）

　今回の資料として資料１、資料２を用意させていただきました。資料１は、議会の冒頭に予算の基本的な考え方を述べたものです。４つの視点が書いてあり、１つ目は「子育て支援」です。こども局の所管事業予算は８４億で約１３％を占めている。こども局以外の子ども関連予算を足すと１５％くらいになるかと思います。今年度については、私立保育園２か所の建て替え補助を行って、定員を６０人増やしました。一時預かり施設も増やしていきます。当日でも預かってもらうのを基本とし、気軽に預けられるようにしました。２つめは「新しい公の形」です。コミュニティセンター化は徳和地区市民センターで始まります。これからのまちづくりは市役所だけでは難しく、市民の皆さまとパートナーシップが必要です。どうしても公務員でないといけないところ以外は地域の皆さんにお任せをしていきたい。まちづくりを市民の皆さまと一緒にやっていきましょう、ということです。今 DX は大幅に進んでおり、行政の事務作業は AI にとって代わられます。すると、よりカスタマーサービスに重きを置く方向に向かいます。福祉まるごと相談室はまさしくそれで、アウトリーチを実現していきます。特定地域づくり事業協同組合、コミュニティファンドなどの手法も使っていきます。観光面で言うと、三井越後屋創業３５０年事業については、我々行政も一緒に参加させてほしいとお願いをしています。４つめはカーボンニュートラルです。ゼロカーボンシティ宣言を行いました。いよいよ R5 は地球温暖化対策推進法に基づく、「地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」を作っていきます。例えば道路照明を LED に変えたり、公用車 EV 化、公共施設に太陽光パネルの設置をしていきます。資料２では、例えば「４．松っこチャレンジ応援事業」では不登校児の居場所づくりを行うための、生き生き学校プロジェクトなどに取り組みます。不登校については、義務教育中は相当手厚いが、高校になると途端にきめ細かさがなくなる。そこへもう一歩踏み出していこうというものです。「６．コミュニティファンド推進事業費」は地域課題の解決のための事業です。「７. 特定地域づくり事業協同組合設立支援事業費」は、例えば移住者が職を得るのに、１人工を抱えられるところが少ないので、少しずつ様々な仕事をしていただき、一人の人がちゃんと食べていけるようにするというものです。松阪市では移住関連の業務をこの組合に任せたいと思っています。「12. 産業用地整備事業費」は、近年していなかった産業用地の整備をしていきます。「17. 中心市街地を含む松阪まちづくり計画策定事業」では、都市計画のマスタープランの改訂を行っていきます。松阪駅西地区複合施設については、新型コロナで動きが止まっていたがもう一回サウンディング調査を行います。「18. 松阪市民病院在り方検証等事業」は、まず地域医療構想があり、提言書は R2 に出したが、新型コロナで止まっていたものをもう一度検証する事業。検証を踏まえて R5 に市民病院の経営改革プランを作っていく。今出ている提言の取扱いをどうするか検証して、医療計画等に反映させていただきたい。「19. みえ松阪マラソン事業費」は、フルマラソンについては申し込みが 7,517 名で、6,584 名が参加し、完走率は 97.5％でした。予算はおよそ 2 億 5 千万円。約 1 億円が参加料で、残りの半分を企業協賛と市の持ち出し（ふるさと寄付）で賄っている。寄付は全国からいただいています。

会長）
いろいろ考えられた予算かと思います。委員の皆さまからご意見をお願いします。

委員）
R5の主な事業がどのような経緯でこのようなラインナップになったのか、どのような人が決めているのかを教えてください。

市長）
基本的に事業は、７月から実施計画を作ることによって決めていきます。まず実行宣言という前年の自己評価を４月に作り、それを受けて実施計画でどのようにしていくかを決める。予算については年内に総務部長査定を行い、年明けに二役査定を行うことで決めていきます。特に今回子育てには力を入れました。人口減少が厳しくなっていることと、アフターコロナの世界になったこと、また未来への投資として、子育て環境や教育の充実に力を入れないと、魅力的なまちには映らないということを考えました。お金を配って移住をしてもらうということでは物事は進まない。コロナでDX が進みましたが、AI の利用がさらに進んだら事務はかなり軽減されます。ポストコロナの地域活性化、世界的なカーボンニュートラルの潮流などを加味し、予算を作りました。

委員）
子育て支援には特に予算がつけられていることが分かりました。ただ、この予算は雲の上のような印象を持ちました。それは、自分ごととして考えたとき、自分自身の子育て環境を助けていただける支援は含まれていないこと、具体的にこの予算をうまく回せていけるのか、という点でそう感じました。例えばそれを実現するときに、行政と民間を繋ぐ人材が居るのかということを考えます。やはりそのつなぎ役、地域プロデューサーなどリーダーたちを集約させないと実現できないのではないかと思います。常に気になっているのが商店街です。市役所があって商店街があって、子育ては人が集う「まちづくり」の中で広がっていくイメージを持っているのですが、しっかり周りを子育てしやすい環境にしていくべきと思います。ひとつの案として、子育て中の父母と、ちょっと人手が欲しい個人事業主を、就業支援という事でマッチングするのはどうでしょうか。そのために子育て世代と高齢者をつなぐ場を商店街に作ったら自然につながりができるのではないかと思います。

市長）
新規事業で副業人材のマッチングを考えています。そこに去年から始めた女性の創業支援をからめていきたいと考えています。市役所でさえ人材を確保しづらい時代です。いろんな人材を必要な時に使っていきたいということを考えると、副業人材をマッチングするのが大事と思います。また女性の社会進出を進めることは前提ですが、子育て中の方は時間的な縛りがかなり厳しい。民間のシステム等を利用しながら頑張りたいと思っています。産業支援センターには１人新しく DX 人材を

配置しますが、中小企業に対して DX を教えてくれることを期待して民間人材を引っ張ってきました。

委員）
産業支援センターのDX人材ですが、県にもDX相談窓口があると思うが、それとは別でやっていくということですか。

市長）
民間の人材を活用するという意味でもあり、松阪市とご縁があってきていただきました。県の相談窓口も大事だが、県の支援はある程度形ができてきて支援するものです。市が支援するのは、そこへたどり着くまでの道筋をつけるところで、いわゆるフェーズゼロの部分となります。

委員）
商工会議所とのすみ分けはどうですか。

市長）
商工会議所はフェーズ１くらいの部分です。

委員）
松阪の企業は DX が非常に弱いと感じます。どうすれば良いか分からないという方が多いので、こうした取り組みは良いと思います。人手不足の解消は市の取り組みでは難しいと思いますが、物価高よりも人材不足のほうが一番の問題だと強く感じています。特にコロナ後の経済復興の際に人材不足は大きな問題だと思います。また、市民意識調査の結果で防災のニーズが高かったと思うのですが、示された予算のなかにあまり防災的な視点が無いように思いますがどうですか。

市長）
防災に関しては、例年防災対策課で市民講座をやっております。令和5年に関して言うと、総合防災訓練について夜間訓練を予定しており、少し予算を上積みしています。

委員）
ありがとうございます。

委員）
先日、私どもの団体の講座で小津安二郎生誕120年として記念館の方に講演していただきましたが、珍しく伊勢市の方が３人ほどみえました。その時に、松阪では1,350万円もの予算がつくということを知っておられ、驚いてみえました。小津安二郎松阪日記を出版されて、記念事業をするが、記

念の年だけの一過性のイベントとせず、次年度以降も継続して続くようなものとして欲しいと思います。

委員）
ボランティアや無償サポートに頼ることは良くないと思います。有償であることが必須で、無償では持続性が無いということになります。松阪市に宿泊するとき、ホテル代が 6,000 円、定食 390 円など、ちゃんと人が働いており設備投資もしているのに、全般的にモノが安すぎると感じています。モノも人もサービスも良いのなら、それなりに高い値段設定で良いのではないかと思います。

市長）
モノが安すぎるといわれると確かにそうかもしれないと思います。小津安二郎関係事業については、悩ましいことがあります。飯高のオーヅ会は個人の家で活動しており、もう一つの拠点は歴史民俗資料館と離れています。とはいえ小津安二郎松阪記念館を飯高に持って行くことはできません。生誕 120 年、没後 60 年という記念の年を持続発展させていくよう、イベントをやって終わりにならないようにしたいと思います。松浦武四郎記念館については生誕 200 年以降、来館者は増え続けています。記念の年のイベントを契機に有名になって、それがさらに人を呼ぶという良い循環を作っていければと思います。

委員）
大枠の話と具体的な話があります。松阪市がやろうとしているのは、公でなければできない、家族をもっと社会化していかなければいけない、という２つの意味があります。家族というのは、医療や福祉などと関係があり、後者の方が抜け落ちがちだと思います。日本の地方創生はどこも同じような課題を持っています。対策として、例えば地域同士が連携するといった方法もあるかと思います。三井越後屋創業 350 年や小津安二郎顕彰事業について、少し前に市長にサステナブル・ブランド国際会議に出ていただきましたが、松阪市は凄いモノを持っていると皆さんの評価が高かった。小津安二郎も世界的に評価されており、日本だけでなく海外でも評価が高いです。そういう糸口を作って海外に発信して、観光客誘致につなげるというやり方もあります。サステナブル・ブランド国際会議も日本で７年目の会議でしたが、数あるプログラムの中で一番良かったとのことでした。

市長）
家族の社会化という話をいただいたが、その意味合いはすごく分かります。それを実現しようとしているのが福祉まるごと相談室です。集団の最小単位が家族です。昔は大きな家族があって、各々の役割分担でやってきたが、今は世帯人数が減り 1～2 人暮らしが増えました。家族を社会化していかないとその解決には至りません。それにはアウトリーチが大事で、まさしく家族の社会化です。「引きこもり」と一言で言っても、生活困窮も 8050 問題もある。解消しようと思うと１つの課題だけではなく、問題は多岐にわたります。しかも地域の身近なところで解決しようと思うと膨大な

人が必要です。松阪市は行政事務を縮小して福祉分野に人を入れよう、福祉に半歩シフトしようとしています。市民センターへの行政の申請は年間１００もないので、もっと福祉を重点的にやっていく必要があります。

委員）
その時に、家族の持っていた本質的なものとかが失われていくのではという危惧があります。それが心配ということが言いたかったことです。

委員）
資料を見るとすごく良い施策がたくさんあります。先ほどの福祉の話も分かるし、市長の哲学がわかる。それを市民に伝えるのが重要で、国の政策で良くあるのはバックキャストの方法です。総合計画や総合戦略も共有されていると思うが、理想を見せてもらってから各論を話してもらった方が分かりやすいのではないかと思います。松阪市を海外に伝えるときに、「４００年続いている企業がある」といったナラティブな感じの物語を繋げていると、立体的な姿となり、強みになるのではないかと思います。もう一つは、せっかく事業をやっているので稼いでみてはどうかと思います。例えば、市として所有するまとまった土地で農作物生産や木の伐採などをしたら、市政を支える財政源になるのではないでしょうか。

市長）
委員のご意見をお聞きして、これから総合計画を R6 に作り直すので、松阪市がめざすものをもう少し具体的示していこうと思いました。時系列の視点は大事なので、それも何らかの形で示していければ。特定地域づくり事業協同組合は我々にとっても冒険、儲かるところまでいったら万々歳だと思います。

委員）
みえ松阪マラソンは、今後どういう体制で運営する予定ですか。

市長）
実行委員会形式でやっていきます。

委員）
マラソンは市民の関心があるイベントですが、サポートチームや市民の苦言が多く出たと思う。なぜそうなったのか、それを解消するために実行委員会に地元を巻き込むことが大事ではないかと思います。また広域で大規模のため職員だけでは賄えないので、市民のマラソンとして運営していけるようにしてはどうか。市が直接動くのではなく旗振りをする。地元民の説得などを含めてやると市民の熱、市民の関心が上がると思います。また交通規制の情報など、なるべく早く地元に情報を

フィードバックするようにしてはどうか。市民を巻き込んでいくということが成功へ近づくことになると思う。好評を得られるし費用もかからない。三井越後屋創業 350 年記念事業について、功績を顕彰とあるが具体的にはどのようなことですか。

市長）
まずみえ松阪マラソンについて、第１回で良いところと悪いところが分かってきました。失敗は、住民自治協議会をもっと巻き込むべきだったということです。中には松尾地区のようにブースをもっていただいたが、他の地域では市から言われるのを待っていたとのことでした。もっと地域の皆さんを巻き込むことをやっていくべきだと思いました。公式でブースを出せるエリアは数が決まっていたが、任意でブースを開いていただいたところあり、日野町などは任意のブースでした。地域で開いたブースはランナーだけでなく、応援してくれた方にまでふるまってくれます。出走ランナー約 9,000 人、ボランティア 4,500 人。１つのイベントで 4,000 人が集まるイベントはやったことがありませんでした。もっとたくさんの方にご参加していただいて、言われているような一体感を高めていきたい。苦情をいただいたのは交通規制の面で、周知の方法を工夫すべきと思います。たくさんの参加をいただいて、喜んでもらえるようにしたい。それから、三井高利さんの話ですが、顕彰と記念講演会を R5 年の 12 月に日本橋等で行います。松阪での日程は決まっておりません。顕彰については、今子どもたちに教科書を作って教えているが、いかに分かりやすく教えるかが大事です。三井高利は 52 歳で起業して 73 歳で亡くなっている。「なぜ」日本一の大金もちになぜなったかをきちんと教えるのが必要。もう少し「なぜ」という部分を興味深く示していく必要があります。それがシビックプライドにつながると思う。

委員）
みえ松阪マラソンについて、市民 4,000 人と言ったが、参加人数が 8,000 人なのに 4,000 人では少ないと思います。もう一つは市民の関心度を高めるべきで、「行政がやっとるんやで出てください」ではなく、市民のマラソンであることが重要。また継続してマラソンが市民に根付く手法をとっていただきたい。三井越後屋創業 350 年記念事業でも同じで、三井だけ顕彰グループがないのは不思議と思う。小学生にまだ浸透していないのではないかと思う。まちづくりを長いことやっているが歯がゆい。そうした活動は長い目で見れば松阪から人が出ていくことを防げると思う。委員の話で、宅老所と託児所を一緒にできないのかというのがあった。年寄りは子育て経験者で子供が好きなもの。それを生かすにはそういうシステムを作る必要があるのではないかと思います。

委員）
少子化対策が最高の高齢者福祉になるというのはそういうことです。やはりつながりを求めている。子育て中は、ちょっと預けたい、相談したいなど、孤独を感じることがあるのでそれが安心感になると思います。商店街のことをなぜ話したかというと、空家店舗が増えており、インボイスが始まるなら商売をやめないといけないという声もある。そこで、ベビーカーで商店街を散歩して買い物

をしてもらうイベントをした。そのイベントはまちを知るという事で感激をしてもらった。車では単に通り過ぎるが、まちに興味をもってもらった。それが大事だと思います。例えば空き店舗にシニアや一人暮らしが集まって、松阪の木で作った玩具があって、親子が行きやすい、何でもないときに集まり、子育ての悩みをちょっと聞くなどができる。そうした仕組みを作るために商店街の空いたところが使えないか。地域活性も含めて良いのではないかと思います。

市長）
それをやろうとしているのがコミュニティファンドになります。いわゆる富山型と呼ばれる福祉サービスについて、各々自分たちの役割や居場所がある。しかしなぜそれが全国展開できなかったかというと、行政が入ると管理面が厳しくなりがちのためです。こうしたことは、コミュニティビジネス的にやっていくと良いので、成果連動型事業はこういうもののためにあります。コミュニティファンドとは何かというと、例えば子ども食堂について、月に１回子どもに食事を出しても意味がなく毎日必要なものです。もし行政がするとなると、段ボールに１か月分の食事を詰めるといった事業をしてしまう。そのため、半分公的なコミュニティファンドが必要となります。全部ボランティアでは長続きしないのでコミュニティビジネス化していくべきものが増えています。行政がやろうとするとハードルが高いものについて、補完するものがコミュニティファンドです。

委員）
難しいことだと思います。具体的に進まないといけないと考えていますが、現場ではなかなか前に進まないハムスターのようなイメージでいます。実際に駅前の商店街の有志５人から、子育て支援と商店街の活性化とコラボして人を呼べるようなアイデアはないかと相談がありました。彼らは本当に困っていました。人を呼ぶことが地域づくりとなるので、何か１つやっていこうと思っています。行政がメインになるとやはり難しくなるので、有志を集めてチャレンジしていこうかと思っています。

市長）
私たちは大歓迎です。そのために共創デスクという窓口もあります。子ども支援と商店街振興の担当課が入って相談してもらうこともできます。行政はどうしても議会を通す必要があり、民間のスピードに追い付けないが、そういう橋渡しはいくらでも参加させていただける。ぜひ一緒にさせていただきたい。

委員）
高齢者が孤立しています。その人がどのようにしていくかの支援が大事でニーズは圧倒的に多いです。子どもが大事だというのは分かりますが、今でも男性で孤独という人が増えている。福祉まるごと相談の支援にそれが入っていれば良いが。豊かなゴールに向かっていける視点も欲しいです。

委員）
地域まるごと相談室にあるのは比較的新しめの福祉の課題です。もともと地域包括支援センターが市内に５か所あり、対象はほぼ高齢者となります。包括支援センターももともとは全世代型のものを考えていたが、障がい者や若い人などは専門分野ではなかった、そういった方を取りこぼさないように考えたのが、福祉まるごと相談室になります。包括支援センターは市民にあまり知られていないため、もっとその仕組みを広げていきたいと思っています。吹き戻し（お祭り等で売っている、息を吹くと丸まった紙の管が伸びるおもちゃ）というものがありますが、あれは誤嚥性肺炎の予防に良い。そういったことを高齢者相手の講演会で言うのですが、売っている場所を知らなかったりする。もっとイベントで「松阪市」と書いた吹き戻しを配るとかして、より地域共生社会に近づく、共助を広げる工夫、良いことをもっと広めて参加したくなるような仕組みが必要なのではないでしょうか。

市長）
めざしているのは縦割りではなく、サッカー型の組織です。野球は自分のポジションが決まっているが、サッカーはディフェンスがシュートしたりする。これだけ社会が難題を抱えるといくつものポジションを兼ねる必要があります。民間にやってもらった方がよい分野や、行政がやった方がよい分野かを考えていく。基本的には採算のとれる分野は民間と思っています。

委員）
官と民との共同による市政、横のつながりのプロジェクトとして、観光分野にオブザーバーをつけてはどうか。

委員）
アイデアですが、市民の人材バンクができたら良いのではないでしょうか。人には得意不得意があるので、支援したい部分をそれぞれが受け持ち、適材適所でアメーバ型に動けるような、人材を活かせる仕組みが必要なのではないでしょうか。自分はこういう人ですというのが分かれば必要な時に繋がれる、ネットワークが作りやすいと思います。

委員）
公に認められている資格があります。臨床心理士ではないけれど、人のお話が聞けるだけみたいな資格もあります。そうしたものを調べて活用してもらってはどうか。ちょっと勉強しただけでとれるものです。

会長）
市民活動センターに市民活動の人材バンクがありますが、それならば比較的やりやすいのではないでしょうか。もう一つは、イベントを周年イベントだけではなくて、継続していくという点につい

て、例えば小津安二郎の誕生日を毎年記念日にして、委員の言われた「ストーリーで紡ぐ」というのも良いのではないかと思います。

委員）
事業の内容について市民の方がどれだけ知っているかというと、あまり知らないのではないかと思います。資料の中の言葉も難しい。カーボンニュートラルなど、市民向けの説明の場があっても良いのではないでしょうか。行政サービスの市民向け講座などで、「今月はこの課がやります」といったことなど、市の先進的な取り組みを分かりやすく紹介してはどうか。

委員）
賛成します。

市長）
ある自治体では、市民芸人制度というのがあります。芸人登録をすると地域のイベントにその人が参加して盛り上げます。これは面白いと思いました。人材バンク的にそれを始めても良いかと思いました。行政情報が難しいのは、紙面の大きさに制限があり、広報にも細かくは載せられないことです。行政のやることはあまりにも幅広く、このようなサービスがあるという情報が上手に出せていないと思います。

委員）
コロナ関係の助成金等もなかなかみんな知らないことが多く、それを「調べる」といったところまでしない方がほとんどかと思います。まちのいたるところにそうしたファシリテーターがいると良いと思いますが。

会長）
バックキャストの話があったが、めざす未来をイメージして、それにたどり着けるまでの見取り図を示し、細かいところはここを見れば良い、と言った提示の仕方も良いのではないでしょうか。

委員）
私が知りたいのは。今の若い人たちは何を望んでいるのか、どんな意見を持っているのかということです。接点がないのでわからない。子育て支援のためにも、それを知る機会があったら良い知恵が出せるのではないかと思います。

委員）
賛成です。支援される側の意見を聴きたいと思います。子どもは子供なりにもっているのではないでしょうか。

≪午後5時00分終了≫